大学院予備教育としての日本語試験対策
―外国人留学生のための特別支援プログラムについて―

木　村　直　美

1．はじめに

「外国人留学生のための特別支援プログラム」とは，山口大学で2009年10月から実施された外国人留学生対象の日本語の授業であり，プログラム発足の経緯については以下に述べる。

山口大学は文部科学省の「平成21年度国際化拠点整備事業（グローバル30）」に応募した。文部科学省は，国際化拠点整備事業（グローバル30）を，以下のように定義している。

> 世界的な人材獲得競争が激しくなっている状況の下，我が国の高等教育の国際競争力の強化及び留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに，留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる人材の養成を図るため，各大学の機能に応じた質の高い教育の提供と，海外の学生が我が国に留学しやすい環境を提供する取組のうち，優れたものを支援する。

文部科学省の選考の結果，山口大学は採択には至らなかった。そこで，「グローバル30」で求められている大学の留学生事業の拡充に資することを主たる目的として各部局から提案し，それを平成21年度国際化推進事業とし，その事業の一つとして，人文学部からは「外国人留学生のための特別支援プログラム」（以下，本プログラム）が採用された。

本プログラムで平成21年度後期に週４コマ担当したのだが，内容としては10月，11月に「場面別表現演習」「ロールプレイ演習」「日本語試験対策講座」「プレゼンテーション演習」を実施した。(注1) 12月，１月には大学院入学準備として「研究テーマについて」「研究計画書の書き方演習」「大学院受験対策講座」「面接試験対策」を実施した。(注2) ２月は４コマすべてを「留学生のための文章の書き方講座」とし，読み手にわかりやすい文章が書けるよう集中的に指導した。また同時に，日本語教育能力検定試験の受験指導の結果，合格した日本人学部生の教育実習の場も兼ねた。(注3)

本稿では，本プログラムのうち，大学院入学準備の教育として行った大学院予備教育，更にその中でも日本語の試験に焦点を当て，ケース・スタディをもとに以下に論考していきたい。

2．研究目的

大学院予備教育には，研究計画書や出願時に提出する論文の指導，また，入学試験の対策等があり，本プログラムでも前述のように大学院予備教育に当たる授業を設け指導に当たった。それらは，大学院予備教育として不可欠なものであり，指導する側にも専門的な知識が必要とされる。

しかし，それらの大学院予備教育を受け専門知識を身に付けても，大学院の受験資格を獲得しておかなければ大学院受験はできない。また，その受験資格を得るのが一つの関門となっている。

大学院を受験するための出願資格は，各大学，また，各研究科により定められている基準に違いはあるが，外国人には独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験（以下，留学試験）の成績を課している場合がある。

本プログラムで最も出席者が多かったのが，山口大学大学院人文科学研究科の受験を希望し来日した中国人の研究生である。研究生とは，大学卒業後来日し，大学院受験準備段階で非正規生として大学に在籍している者を指す。

研究生たちが目標とした人文科学研究科の出願資格における留学試験の基準は，「平成22年度山口大学人文科学研究科（修士課程）学生募集要項」によると次のように定められていた。「平成21年度日本留学試験の『日本語』を受験し，読解，聴解，聴読解の合計点については240点以上，記述については４点以上の成績を修めていなければならない」。合計点の240点とは，400点満点中の得点であり，60％以上の成績が必要となるというわけである。記述の４点とは，６点満点中の得点で66.7％である。これは容易に獲得できる成績ではない。基準点に満たないため，希望の大学院を受験することができず，他の大学の大学院や山口大学ではあるが，別の研究科を受験せざるを得ない留学生もいた。

また、私費留学生の日本語能力試験１級の高得点者には，日本語能力試験１級成績優秀者奨学金（日能奨学金）が財団法人日本国際教育支援協会から支給されるため，受験を勧めるようにしている。

このような現状を踏まえ，本研究は今後来日する留学生の中で，ともすれば等閑にされがちな研究生が，効果的に学ぶ機会が得られるようにすることを目的としている。

３．日本語試験対策講座

日本語試験対策講座としては，2009年10月７日から12月２日まで週１回90分（水曜日14:30～16:00）の授業を計９回実施した。以下の表１に実施内容を示す。

表１．日本語試験対策講座の実施内容

第1回	10月７日	留学試験　記述・読解練習
第2回	10月14日	留学試験　聴解・聴読解練習
第3回	10月21日	留学試験　**模擬試験（記述20分，読解30分，聴読解35分）**
第4回	10月28日	留学試験　**模擬試験（聴解35分）**，10月21日実施の模試返却・解説
第5回	11月４日	10月28日実施の模試返却・解説，試験練習・総まとめ
日本留学試験（11月8日）		
第6回	11月11日	日本語能力試験1級　**模擬試験（文字・語彙45分，聴解45分）**
第7回	11月18日	日本語能力試験1級　**模擬試験（読解・文法90分）**，11月11日実施の模試返却
第8回	11月25日	11月18日実施の模試返却・解説，試験練習
第9回	12月２日	試験練習・総まとめ
日本語能力試験（12月6日）		

内容は,留学試験の「日本語」の対策と日本語能力試験１級(以下,１級)の対策である。以下,本稿で指している留学試験とは,「日本語」科目のみについて述べている。

授業の中で模擬試験も実施した。90分の授業時間内では,120分の留学試験,180分の日本語能力試験を分割して行う必要があった。

４．模擬試験の結果

留学試験の模擬試験は,アルク日本留学試験研究会(2003)を使用した。すべての分野の模擬試験を受験したのは９名であったが,内１名は同一の模擬試験を既に個人で実施していたため平均点からは除外した。留学試験は,本試験では得点等化,つまり「異なる試験を受験した人の得点から試験の性質による影響を排除して,受験者の能力に相応する何らかの共通な得点(尺度点)に変換して比較可能にする操作」(日本学生支援機構)がなされる。そのため模擬試験で各問題に対する配点が決められないので,得点という形式で示すのではなく,正解率としている。以下の表２に,留学試験の模擬試験の結果を示す。

表２．日本留学試験の模擬試験結果

試験区分	受験者数(人)	平均(%)	最高(%)	最低(%)
総合	8	59.3	83.3	40.0
読解	8	61.3	80.0	40.0
聴解	10	62.0	85.0	35.0
聴読解	8	56.3	85.0	30.0

日本語能力試験１級の模擬試験は,石崎ほか(2005)を使用した。１級は,問題ごとに配点が定められており,得点を出すことが可能であるため,以下の表３のように得点で示した。

表３．日本語能力試験１級の模擬試験結果

試験区分	受験者数(人)	平均(点)	最高(点)	最低(点)
総合(400点)	7	298.1	372	246
文字・語彙(100点)	8	78.0	88	64
聴解(100点)	7	78.1	92	58
読解・文法(200点)	8	141.9	193	112

５．出席者の声

質問・感想カードに書かれた出席者の声を挙げていく。誤用や不自然な表現もあるが,そのまま記載することにする。

日程的に先に実施される留学試験の対策を行うしかなかったのだが,１級しか受験しない留学生もおり,最初から１級対策を期待する声もあった。そのような留学生には,留学試験対策であっても１級受験にも役立つとして出席を促した。「私は留学試験を受けないんですけど,能力試験の勉強と思ってがんばります」(人文・交換留学生)というものもあった。

また,「留学試験まで１カ月しかないから，本当にこの授業の時間帯を増やしてほしいです」（人文・研究生a）のような声が非常に多く，日本語試験対策講座は本プログラム内の他の３コマ（筆者担当分）より出席者が多い授業であった。他の授業には，留学試験や１級が終わってから出席したいという声もあった。今回の意見を取り入れ，次回このような機会があれば，留学試験対策と１級対策の時間を別に設け，本試験までは，可能な限り試験対策の時間とし，本試験が終了した時点で，会話の練習などを取り入れていけたらよいのではないかと思われた。

「この授業で，日本留学試験の模擬テストを実施したらいいと思います」（人文・研究生b）最初の授業でこのような意見が多く，授業で模擬試験を実施したことは以下の意見のように良い結果につながった。

「まるで試験を受けている雰囲気ですので，とても集中できると思います。ありがとうございました」（人文・研究生c),「やはり長い時間をつづけて，聴解や聴読解の問題をすることが難しいです。集中することが難しいです。この模擬テストを通して，どこが自分の弱点ということが多かれ少なかれ分かりました」（人文・研究生d）という集中力の持続に関する意見も多く見られた。各自，自宅等で実施可能なことだとも考えられるが，相当な集中力が必要であることも意見から読み取れ，自宅等で試験同様に時間を制限して行うことは困難なことがわかった。

「読解は,時間制限のうちに圧力があるから,なかなかいい結果がでません」（人文･研究生e),「なんでも分からない感じで,すごく緊張しました。試験までに,もうちょっとの練習ほしいな」（人文・研究生f）のようにプレッシャーや緊張という意見も多く，本番さながらの雰囲気で模擬試験を受けることは，心理的な負担の緩和にもつながると言える。

「来週は最後ですがまた模擬テキト[注4]やることができますか」（人文・研究生g）のように更に模擬試験をこなし，試験に慣れたいという思いも伝わってきた。模擬試験をすることで，心理的な側面と問題形式の双方に慣れることができるというリハーサル効果が得られ，受験者に有益であったと思われる。

６．日本留学試験（日本語）

留学試験の読解・聴読解の問題例を以下に示す。

問題例【読解】

次の文章は，ガという害虫の被害を防ぐための防虫剤について述べています。この防虫剤は果物の木に取り付けるチューブ状の物ですが，その特徴はどれですか。

チューブの中には，合成されたガのメスの性フェロモン物質がぎっしりと詰まっている。その濃度は，メス１匹分の数万倍にも達する。

このチューブは新手の「防虫剤」だ。ガのメスは交尾の際，その種ごとに特有の性フェロモンを出す。オスはそのにおいに惹(ひ)かれメスを探し当てる。性フェロモンを畑一帯に充満させることで，オスとメスの間の交信をかき乱し，交尾させないようにできる。害虫の繁殖を抑えられるうえ，果実への残留もない。食の安全に関心が高まるなか，殺虫剤を減らす防除

技術として注目が高まっている。

（中川透「『ほれ薬』で害虫防除」朝日新聞2009年７月４日）

１．害虫が動けないようにする。
２．害虫の卵を駆除する。
３．害虫の生殖行動を妨げる。
４．害虫のメスの数を減らす。

平成22年度（第１回）日本留学試験より

受験者は，過去問に出てくるすべての言葉や表現をひたすら覚えなければいけないというビリーフ（思い込み）にとらわれがちである。しかし，上記の問題のようにスキミング（大意把握）やいかに必要な情報を取れるか，いかに不必要な情報を捨てるかというスキャニング（探し読み）など読み方を変える指導も必要となる。ボトムアップの精読法のみで学んできた学習者が多いからである。また，受験者の中には，留学試験や日本語能力試験を試験範囲のある到達度テストのように考えて，本試験の一週間前には，授業もアルバイトも休んで自室に閉じこもり，ひたすら徹夜してでも単語を覚えこむといった間違った対策をとっている者もいる。

問題例【聴読解】

日本語能力試験にはない試験区分の聴読解の問題例を以下に示す。まず次のようなスクリプトが音声のみで流される。受験者は，次頁の問題文と資料だけを見て解答することになる。

女子学生と男子学生が掲示板を見ながら，集中講義について話しています。この男子学生はどの集中講義を受講しますか。

女子学生：ねえ，集中講義，どれか取る？
男子学生：うん，取るつもり。できれば，９月中に講義二つとりたいんだよね。
女子学生：ああ，でも，大学院生だけを対象にしているのは，講義は聴けるけど単位はもらえないよ。いいの？
男子学生：あ，そうか。せっかく出るなら単位がほしいな。そうすると，９月はこれを取って，もう一つは８月のにするか。
女子学生：あれ？でも，このあいだ，８月は実家に帰るかもって言ってなかった？
男子学生：うん。でも，まだ日にちは決めてないから，大丈夫。
女子学生：そう。私，この大学院生も来るのに去年出たんだけど，結構大変だったよ。難しいから，取ってる学生も少なかったし。
男子学生：そう。じゃあ，かえって先生にいろいろ質問しやすいじゃない。僕，挑戦してみるよ。じゃあ，これとこれで決まりだな。

女子学生と男子学生が掲示板を見ながら，集中講義について話しています。この男子学生はどの集中講義を受講しますか。

集中講義のお知らせ

A
科　目：日本語学特講
単位数：2単位
教　官：山田　太郎
日　程：8月3日(月)～6日(木)
時　間：3限
対　象：学部生・大学院生

B
科　目：社会言語学
単位数：2単位
教　官：鈴木　花子
日　程：8月11日(火)～14日(金)
時　間：2限
対　象：学部生

C
科　目：アジア文化交流史
単位数：2単位
教　官：谷口　正子
日　程：9月1日(火)～4日(金)
時　間：2限
対　象：大学院生

D
科　目：西洋哲学
単位数：2単位
教　官：野村　明男
日　程：9月7日(月)～10日(木)
時　間：3限
対　象：学部生

※学部生は大学院生のみを対象とする授業も聴講できます。
　ただし，授業の単位は取得できません。

1．AとC　　2．BとC　　3．AとD　　4．BとD

平成21年度（第１回）日本留学試験より

上記の問題は，課題を先に示し，視覚情報とともに音声を聴きながら解答を考えるタイプの問題（タスク・リスニングtask-listening）である。

留学試験は，文字や語彙，文法的な内容を問うのではなく，日本の大学での授業や事務手続き等に対応できるかどうかを測定する試験である。すなわち言語知識を直接問うような出題方法ではなく，備わっている言語知識を駆使して対応できるアカデミック・ジャパニーズ(日本の大学等での勉強に対応できる日本語力)を測定する方法である。

よって，講義の内容が理解できるかどうかも測定される。テーマは理系，文系のさまざまな分野から出題されるが，そのテーマの専門知識は必要のない問いであり，アカデミック・ジャパニーズが身についているかどうかのみ問われるようになっている。聴解については音声のみの試験であるため本稿では省略するが，読解，聴読解と同様アカデミック・ジャパニーズが問われる問題となっている。

受験者の中には，せっかく留学試験の過去問にＣＤがついているのに，それを利用しないで，視覚情報だけで対策を立てている学生がいる。音声抜きに聴読解の問題をやってもあまり意味がない。聴読解の視覚情報の部分は，図表やグラフが示されることが多く，普段から図表やグラフをどう読み解くかトレーニングしておくことが受験対策になる。

６－１．模擬試験と本試験

目安として留学試験の模擬試験と本試験の平均点を以下の図１に示す。

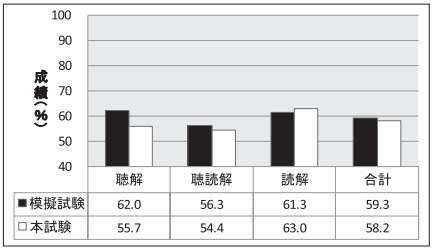


図１．留学試験の模擬試験と本試験の平均点

模擬試験は，本プログラムに出席している者のみに行ったもので，表２で示したように受験者８人から10人の平均点である。

本試験（平成21年度第２回）は，日本国内では15都道府県の22箇所，国外では13の国の15箇所で実施され，受験者22,935人（日本学生支援機構）であり，その平均点である。

このように模擬試験と本試験では，人数がまったく異なる試験であり，本試験では得点等化がなされるため，平均点の比較はあくまでも目安である。しかし，比較するといずれの分野も平均点に10ポイント以上の差は見られず，難易度には大差はないと言える。

本プログラム出席者の中から，留学試験と１級の両試験を受験し，且つ模擬試験においても両試験とも受験した３名の研究生の結果を本人の了承を得た上で，ケース・スタディを示していく。この３名の研究生は，いずれも留学ビザで日本に滞在している中国人留学生で，それぞれ留学生Ａ，留学生Ｂ，留学生Ｃとする。

６－２．留学生Ａのケース

留学生Ａの模擬試験と本試験の比較を以下の図２に示す。

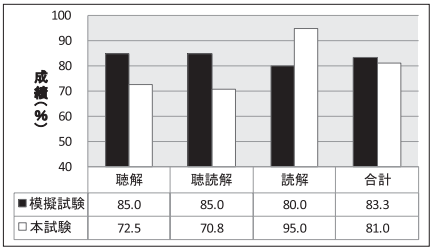


図２．留学試験の模擬試験と本試験の比較Ａ

留学生Ａの場合，模擬試験の際，すべての分野において８割以上の成績を獲得していた。本試験までに読解を伸ばし，15ポイントアップしたが，聴解，聴読解がともに約10ポイント以上ダウンしたため，合計点は，模擬試験と本試験でほぼ同成績であった。

合計点のわずかな差異の2.3ポイントは，本試験では得点等化がなされることや，それぞれの問題内容の難易度の関係で成績上昇・下降を判断することはできない。

留学生Ａの場合，日常生活や授業場面で日本語の４技能がバランスよく習得できている様子が観察できる。

６－３．留学生Ｂのケース

留学生Ｂの模擬試験と本試験の比較を次の図３に示す。

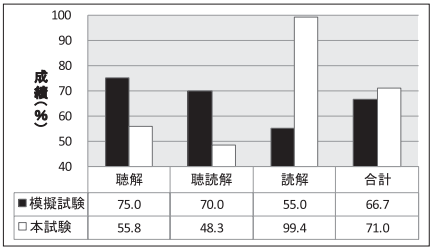


図３．留学試験の模擬試験と本試験の比較Ｂ

留学生Ｂの場合，模擬試験の読解が低く，平均点をも下回った状態であったため，非常に心配されたが，本試験までに相当な努力が見られる。読解は160点満点中159点の99.4％であった。

聴解，聴読解は，模擬試験ではいずれも７割以上とれていたにもかかわらず，本番では得点が思うように獲得できなかった。聴解で19.2ポイントダウン，聴読解に至っては21.7ポイントダウンである。

留学生Ｂは，普段の会話で，自ら進んで発信することが少ないのだが，質問の受け答えには的を外しておらず，本来の実力としては聴解や聴読解がここまで低いとは到底考えられない。本人も集中力が持続しなかったことや，緊張したと話している。実力は，模擬試験の結果のような７割程度あると思われることから，本番のプレッシャーに負けていることが考えられる。

しかしながら，読解を44.4ポイントも伸ばし，実力を発揮できていたため，合計点としては模擬試験より上がり，７割を超える成績をとることができた。留学生Ｂが漢字圏の学生であることと読書が趣味であることなどが読解において好成績を残したことにつながったと思われる。

６－４．留学生Ｃのケース

留学生Ｃの模擬試験と本試験の比較を次の図４に示す。

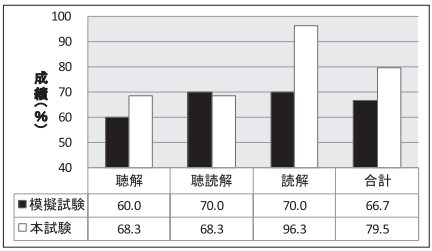


図４．留学試験の模擬試験と本試験の比較Ｃ

留学生Ｃの場合，聴読解に若干の下がりがあるが，わずかであり成績が下降したとは言えない程度である。聴解，読解については，いずれも上昇しており，読解では，26.3ポイントもアップしている。合計点でも12.8ポイントアップし，確実な伸びを見せた。留学生Ｃの場合，聴解と聴読解に苦手意識はなかったが，その分野の力を伸ばすことが課題と言える。

７．日本語能力試験１級

平成20年度日本語能力試験より１級の問題例を以下に示す。

問題例【文字・語彙】

次の文の＿＿＿＿部分に入れるのに最も適切なものを，１・２・３・４から一つ選びなさい。 依頼されても無理なことなら＿＿＿＿断わった方がいい。 １　じっくり　　２　げっそり　　３　きっぱり　　４　くっきり

問題例【聴解】

	名字(みょうじ)	名前(なまえ)
1	なかじま	けんし
2	ながしま	けんじ
3	なかしま	けんじ
4	なかしま	けんし

スクリプト（以下，音声のみ）
先生が教室で生徒の名前を呼んでいます。この生徒の名前は平仮名でどう書きますか。

F：じゃあ，出席取るわね。中島健司(なかじまけんじ)君。
M：先生，僕の名字濁らないんですけど。
F：あー，ごめんなさい。

この生徒の名前は平仮名でどう書きますか。

留学試験では，視覚情報とともに音声を聴き取る問題は聴読解，音声のみの問題は聴解と試験を区分しているのに対し，日本語能力試験では，両者のタイプの試験を一分野の試験で聴解としている。上記の問題例は，留学試験の問題例で示したものと同様に，視覚情報とともに音声を聴きながら解答するタイプの問題（タスク・リスニングtask-listening）の例である。

問題例【読解・文法】

次の文の_____にはどんな言葉を入れたらよいか。１・２・３・４から最も適当なものを一つ選びなさい。
　うそをつくことは，どんな理由_____許されない。
1　だに　　2　であれ　　3　ならば　　4　にてらし

読解・文法は，上記のような問題のほか長文問題もある。留学試験と異なって，言語知識を直接問うものであり，日本語そのものを正しく使えるか，理解できるかを問うている。留学試験がアカデミック・ジャパニーズを測定するのに対し，日本語能力試験は，一般的な日本語能力を測定するものとされている。

７－１．模擬試験と本試験の比較

１級の模擬試験と本試験の平均点を次の図５に示す。

留学試験は合否判定がつかない試験であるのに対し，日本語能力試験は合否判定がつき，１級は70％以上，２～４級は60％以上の得点を獲得した者が合格とされる。

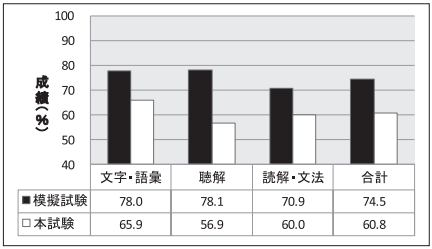


図５．１級の模擬試験と本試験の平均点

また，合格者，不合格者ともに本人に得点が通知される。そのため，合格者であっても更に高得点で合格することを目標に受験するのである。

模擬試験の受験者は，半数である４名が１級合格者であり，70％以上の成績をとれることから，模擬試験の方の平均点が高くなっている。すなわち，模擬試験の難易度が低いのではなく，模擬試験の受験者のレベルが高いのである。

本試験（平成21年度第２回）は，国内は，33都道府県，国外は55の国・地域の176都市で実施され，合計156,723人（日本国際教育支援協会）受験している。留学試験同様，模擬試験と本試験では人数がまったく異なる試験であり，平均点の比較はあくまでも目安である。

留学試験と１級とでは，どちらが難易度が高いかや，１級の得点がわかれば留学試験は必要ないのではないかということがよく話題とされるが，両試験は測定する内容が異なる試験であり，比較することができないとされている。

しかし，本研究の留学生Ａ，留学生Ｂ，留学生Ｃにおいては，留学試験のほうが難易度が高いと述べている。以下に示すケース・スタディを見ても留学生Ａ，留学生Ｂ，留学生Ｃにとっては，留学試験のほうが難易度が高いのは，明らかである。

留学試験と同様の３名のケース・スタディをもとに以下に分析していく。

７－２．留学生Ａのケース

留学生Ａの模擬試験と本試験の比較を以下の図６に示す。

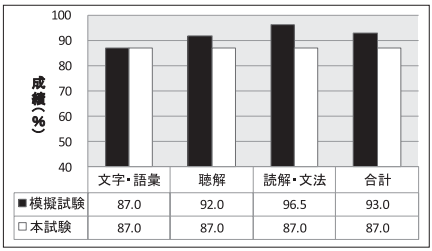


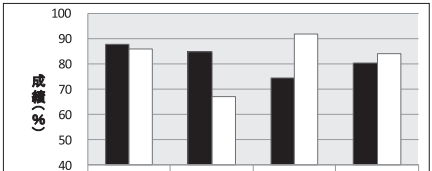
図６．１級の模擬試験と本試験の比較Ａ

留学生Ａの場合，模擬試験の合計点は90％以上獲得していた。留学生Ａは，90％以上が目標であったが，上級になってもなかなか越えられない大きな壁でもある。模擬試験では越えることができ，本番でもこの調子で実力が発揮できればと期待があったのだが，本人は，今までいつも本番は模擬試験より下がってしまうと不安がっていた。

事実，６ポイントダウンしてしまい，壁は越えられなかったのだが，どの分野も均等に優秀であることは証明された。一般的には，分野によって得意，不得意があるものだが，留学生Ａの場合は，均衡を保っているケースである。

留学試験のケースと照合し分析すると，留学試験の聴解，聴読解，1級の聴解，つまりリスニングが本番で下がってしまうという共通点が見られる。リスニングの試験練習を重ねることで，リハーサル効果が得られるのではないだろうか。

７－３．留学生Ｂのケース



	文字・語彙	聴解	読解・文法	合計
■模擬試験	88.0	85.0	74.5	80.5
□本試験	86.0	67.0	92.0	84.3

図７．１級の模擬試験と本試験の比較Ｂ

留学生Ｂの模擬試験と本試験の比較を図７に示す。

留学生Ｂの場合，読解・文法が17.5ポイントアップしている。これは，留学試験のケースと同様で上昇率が非常に高い。

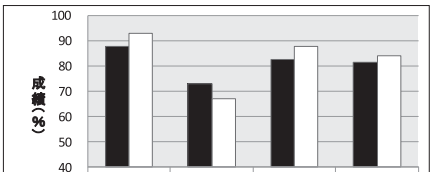
それに対し，聴解は18ポイントダウンしている。

リスニングの下降率が極端に大きいことも留学試験のケースと一致している。リスニングの試験に慣れることが今後の重要な課題であることがよくわかった。

また，合計点では，模擬試験より本試験のほうで成績が上昇している点についても，留学試験の際と共通していことである。

７－４．留学生Ｃのケース

留学生Ｃの模擬試験と本試験の比較を以下の図８に示す。



	文字・語彙	聴解	読解・文法	合計
■模擬試験	88.0	73.0	82.5	81.5
□本試験	93.0	67.0	88.0	84.0

図８．１級の模擬試験と本試験の比較Ｃ

留学生Ｃの場合，どの分野も10ポイント以上の差異はない。留学試験のケースと照合し分析してみると，留学試験程の伸び率は見られないが，トータルでは，若干アップしており，両試験とも，本試験で合計点を伸ばしたことになる。

ただし，両試験ともに聴解が低く，普段の教員とのやりとりでも指示を聞き間違えたり，授業中に参照箇所がわからなくなったりしている。

８．まとめ

留学生Ａ，留学生Ｂ，留学生Ｃの３名の留学試験と1級の模擬試験，本試験の結果をもとに，ケース・スタディを行った。

留学試験の読解においては，３名とも本試験で確実に成績が上昇しており，本プログラムの日本語試験対策講座での読解練習の成果が効果的に表れたと言える。しかし，留学試験の聴解，聴読解においては，成績が下降しており，更なるリスニング練習の機会が必要である。

１級では，いずれも文字・語彙は模擬試験と本試験で大きな差異はなかった。文字・語彙にも力を入れ伸ばすことも今後必要である。１級の聴解は，留学試験と同様いずれも下降してしまい，やはりリスニング練習の機会を増やす必要性を痛感させられた。１級の読解･文法では，留学生Ｂと留学生Ｃが成績を上昇させており，ある程度の成果は見られる。

本研究対象の留学生はいずれも，本番で集中力が持続できなかったということや，緊張した

ということを述べており，集中力を持続する訓練も必要であることもわかった。前述のように，今回は１コマの授業の中での模擬試験であったため，90分内に収める必要があった。そのため模擬試験を分野ごとに分散させ，日を改めて実施した。模擬試験では，本試験より集中力が持続したのは，日を分散させた影響があると言える。今後は，２コマ連続して時間を確保するなどし，模擬試験の日程を設け，本試験と同様連続しての模擬試験実施の必要性も感じられた。

９．おわりに

本稿では，留学試験は平成21年度第２回試験（11月実施），日本語能力試験は平成21年度第２回試験（12月実施）の結果を扱った。両試験ともその次の回，すなわち平成22年度第１回試験（留学試験：６月実施，日本語能力試験：７月実施）より改定があった。

留学試験については，聴解，聴読解は，時間，配点の変更で問題形式の変更はない。読解には複問や長文が加わったが従来形式の問題も引き続き出題されている。

木村（2008）は，誘いに対する「断り」についてロールプレイによる調査を行った結果，「現在の日本語能力試験とコミュニケーション能力との相関関係は必ずしも深いとは言えない」と指摘していたが，新日本語能力試験においては，課題遂行のためのコミュニケーション能力を測定するよう大きく改変された。

また，日本語能力試験は，試験内容だけでなく，合否判定についても大きく改変されており，以前のように合計点が基準点以上であれば合格というのではなく，区分ごとの得点がその区分に設定された基準点以上であることが必要となった。つまり，合計点は基準点を満たしていても，一つでも基準点に達しない分野がある場合は，不合格になってしまうということである。

両試験の改定後の対策としては，試験区分ごとのバランスのとれた実力の向上が必要と言える。弱点補強などの具体的な受験指導の研究については，今後の課題としたい。

（注１）10月，11月の指導の際，主に使用した教材は以下である。
岩佐靖夫（2007）『合格できる 日本留学試験』アルク／小野正樹ほか（2009）『コロケーションで増やす表現 ほんきの日本語』〈vol.1〉くろしお出版／金子広幸（2006）『初級が終わったら始めよう　にほんご敬語トレーニング』アスク／（財）京都日本語センター（2009）『絵でわかる　日本語場面別表現205』アルク／三浦香苗ほか（2006）『最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

（注２）12月，１月の指導の際，主に使用した教材は以下である。
独立行政法人日本学生機構（2009）『実践 研究計画作成法―情報収集からプレゼンテーションまで 』凡人社／細川英雄（2006）『研究計画書デザイン・大学院入試から修士論文完成まで』東京図書

（注３）２月の指導の際，主に使用した教材は以下である。
石黒圭ほか（2009）『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク

（注４）「テスト」を「テキト」と書いたミステイクであることは，本人に確認している。

【参考文献】

アルク日本留学試験研究会（2003）『日本留学試験スコアアップ問題集』アルク
石崎晶子ほか（2005）『合格できる１級日本語能力試験』アルク
木村直美（2008）「日本人と中国人の『断り』表現比較―日本語のロールプレイの分析―」『比較文化研究』№83日本比較文化学会
日本学生支援機構（2009）『平成21年度日本留学試験（第１回）試験問題』桐原書店
日本学生支援機構（2010）『平成22年度日本留学試験（第１回）試験問題』桐原書店
日本国際教育支援協会・国際交流基金（2009）『平成20年度日本語能力試験１・２級試験問題と正解』凡人社

【参考ウェブサイト】

文部科学省http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/1260188.htm
日本学生支援機構http://www.jasso.go.jp/eju/
日本国際教育支援協会http://www.jees.or.jp/jlpt/pdf/2009_2nd/00-scr-all.pdf

（きむら・なおみ）